

平成 28 年度岩手県立大学公開講座・滝沢キャンパス講座 概要集

No.	月日	時間	テーマ等
1	7/23 (土)	13:15 ～ 15:15 (開講式の 進行によっ ては開始が 若干早まる 場合があります)	<p>【講義テーマ】 地方創生の時代と岩手県立大学 【講師】 岩手県立大学 学長 鈴木厚人 【概要】 今、地方創生の時代が唱えられ、県を挙げて種々の取り組みが行われています。岩手県立大学も一丸となって地方創生に関わる教育、研究、地域活動に努力しています。ここで、一歩立ち止まり、「なぜ今、地方創生なのか?」、「その背景にはなにがあるのだろうか?」という素朴な疑問を発し、「これによって明らかになった課題とはなにか?」、そして「この課題を克服するには何をすべきか?」という観点から地方創生を見つめ直すことも必要であると思います。</p>
2	7/30 (土)	10:00 ～ 12:00	<p>【講義テーマ】 「豊かな生」を支える関わりを考える 【講師】 看護学部 講師 渡辺 幸枝 【概要】 看護は、生きている人間そのものにかかわり、対人関係を基盤として援助していこうとするものであり、相手の世界で相手の気持ちになることが必要と言われています。しかしながら、「私」が知る全ての情報は、「私」というフィルターを通して、「私」の中に取り込まれています。どのように相手をとらえることができるでしょうか。この講義では、“豊かな生”という視点から、人間対人間の看護のありようについて考えていきたいと思ひます。</p>
3		13:00 ～ 15:00	<p>【講義テーマ】 岩手のホームスピンの昔、今、そして未来 【講師】 盛岡短期大学部 教授 菊池 直子 【概要】 岩手のホームスピンは、大正期に農家の副業として拡がり、昭和期に入って敗戦後の復興とともに地場産業にまで発展しました。経済の高度成長期には、生活の豊かさとともに生産量が急増しましたが、時代の変化により手仕事ゆえの生業の厳しさに直面してきました。今日、岩手に継承されるホームスピンは、工芸の確かな技術を受け継ぎ、創意工夫されてきたものです。講義では、岩手に息づく手仕事の文化として未来へつなげることを考えます。</p>
4		10:00 ～ 12:00	<p>【講義テーマ】 南極から地球の未来を考える 【講師】 東北大学名誉教授 福西 浩 氏 【概要】 最も原生的な自然が残る南極大陸。中心部の氷床は 4000m もの厚さがあり、過去 100 万年の空気が閉じ込められています。南極は地球温暖化の過去・現在・未来を知る上で決定的に重要になっており、厳しい環境の中で研究者は未知への挑戦を続けています。極夜を彩るオーロラからは激しく変動する宇宙環境を知ることができます。宇宙、地球、生命をトータルに考えることができる南極から地球の未来について考えます。</p>
5	8/6 (土)	13:00 ～ 15:00	<p>【講義テーマ】 地域と連携した岩手発の先進的な ICT 活用 【講師】 ソフトウェア情報学部 准教授 堀川 三好 【概要】 岩手県をフィールドにして生み出された先進的な ICT 活用例についてご紹介いたします。研究グループが、地域と連携して取り組んでいる農業、福祉、子育て、観光・商店街等の分野での ICT 活用事例や導入してみて感じた苦労話や課題について紹介いたします。また、ドローン、人工知能、IoT、ウェアラブルデバイス等の先端技術を地域でどのように活用するかについて、現在進行中の研究事例をもとに考察します。</p> <p>《用語説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT→情報コミュニケーション技術 ・ IoT→身の回りにあるさまざまなモノをインターネットに接続して利便性を向上させる取組み ・ ウェアラブルデバイス→腕や頭部など、身体に装着して利用することが想定された端末

※当日の講義においては、内容を若干変更する場合があります。御了承ください。